

わんぱく学園ニュース

令和3年 3月・4月号

No.206

毎週楽しみ

記 わんぱく学園生徒一同

背のたけは30センチぐらい。可憐な姿は「私を忘れないで・・・」と叫んでいるようです。水辺に咲く可憐な花・・・そう・・・忘れな草の花が咲く頃――。

忘れな草 叫びは深く ^{いび}響くとも

花ことばは、私を忘れないで・・・真実の愛です。

いえ、決して忘れません。あなたの偉業を・・・そんな想いを込めてつづってみました。

～土江 和世～

特定非営利活動法人 サポートセンターどりーむ

理事長 土江 和世

101歳の父が亡くなりました。

大正 昭和 平成 令和と見事な人生でした。私たちは大きな支えを失いました。雪ふる寒い日に旅立ちました。いくらおいかけてもむなしい響きだけ・・・雪の白さが 雪の純粹さが コロナを運び去ってくれるように祈りを込めました。

無類のアイデアマンだった父は(有)土江養鶏研究所を開設し、バードゴルフ場をつくり、学農食堂という長靴で一杯飲める飲食店を始め、農地を宅地に変え、生活を支える基礎をつくりました。すべて彼の先見性が生んだ偉業でした。父 肇は私の夫の父親でした。

出来ることは出来る、出来ないことは出来ない・・・と堂々と発言した人でした。

議員だった彼のもとにはたくさんの陳情がきました。いい返事をして時間稼ぐという風習にはすぐわなない人でした。だからいいんですね。

白無垢の姿遣い一つ ゆめの中・・・

毎週楽しみにして生活してきたんだ。

毎週日曜日のメニューは大好き・・・食べることも環境に寄与する環境にお役に立てることはうれしい。

ぼくたちはずっと参加してきたんだ。

一番うれしいことは、メニューが自由だし、出席もとらないんだな・・・だからいいんだな・・・学校のように、カリキュラムが決まっていなかったことが、いいんだね。あるもので作る・・・なんて学校ではなかったんだ。

例えば鍋を作るとき、大抵、参加人数は？用意しなければならない材料は？でもわんぱくは違うんだ。あるとき、こんなことがあったんだ。

地元の高名な陶芸家のアトリエで鍋を作ったとき、そこにあったのは大根一本だけ、それも隣の畑の・・・

僕たち生徒は手ぶら。陶芸家曰く「大根さんに聞いたら取っていいよって」・・・僕たち「そりゃおかしいな・・・」そう！これがわんぱく流、集まった材料で作る・・・だから美味しい。大根一本と味噌・・・美味しい鍋の出来上がり・・・みなでつづいたんだ。野菜がたくさんなければできないのではない、集まった材料で結構、皆でつくるから美味しいんだな。

こんなこともあったな・・・。河原の清掃をしたときのこと、ある友達がしゃがみ込んでいたんだ。。その目線には野に咲く野草があったんだ。。その花を摘んでいか・・・友達は花に聞いていたんだ。美しいなあと思ったんだ。そうした「心」をぼくたちは忘れているのかも。花は誰のものでもないよね。付き添いの先生や保護者のものではない。にもかかわらず私たちはつい聞きます。付き添いのひとに・・・「これ取っていい？」と なにか欠けているように思えます。

こうした“素朴さ”を忘れてしまいそうになる時、学園に参加してよかったな・・・と思うんだ。。 だから学園続けてほしいんだな・・・。

オンリーワンがどうして通用しないのか？ どうして障がいがある人が同じ舞台にたてないのか？

不思議に思うことがあります。

なぜ 障がいがあるひとがパラリンピックなのか？

繰り返される順位への闘い・・・ナンバーワンの闘いをいまだ続けているのが我々。

どの世界でも論じられるのは金 銀 銅・・・なぜ一生懸命さに冠をあたえないのか？わかりやすい評価だから・・・いや根強くあるのは偏見です。

初めてはいたスニーカー、一番最後にゴールしてもそれは {金} ではないのでしょうか？

ここからここまでは優秀・・・そうでしょうか？

要は審査の在り方・・・どう見るか？です。順位で査定するのは簡単、総合的に判断するのは難しいですね。

忘れな草の花



■ 3月&4月の「わんぱく学園」活動について

3月4月のメニューについてです。すべてコロナ感染防止のための企画であり、担当者も未定のため、必ず事前に事務局までお問い合わせください。

事務局：常賀（つねよし）

連絡先：080-3056-1175

*集合時間：9時50分 集合場所：指定の場所へ来てくださいね。

問い合わせ&発行元

〒691-0031 出雲市東福町156-1 NPO法人サポートセンターどりーむ

TEL & FAX：0853-62-4872 メール：art-art@amail.plala.or.jp